

好評 褒める教習所

自動車教習所といえば、指導が厳しいとよくいわれるが、伊勢市小俣町元町の南部自動車学校はそんなイメージと一線を画す。「ほめちぎる教習所」を掲げ、積極的に褒めて生徒の意欲を高める指導を今年二月から実践して話題となっている。注目の教習現場をのぞいてみた。

（中平雄大）

伊勢で実践「運転楽しい」

〔中平雄大〕

今月六日、通信制高校に通う明和町有爾中校に運転を申し込んでもらうため。褒めることである。

千四百七十二校から二年には千三百五十八

の森祥多さん(三ミ)の実やる気を引き出せる」警察庁のまとめによ
校に減少。卒業生も百
技教習があつた。入校と語る。背景には少子
ると、全国の指定教習九十二万人から百五十
して一カ月だが、ハン高齡化に伴う教習所数
所の数は二〇〇三年の九万人に減つた。

ドルを握るのは二週間ぶり。やや緊張した面持ちで、ペテラン指導員の明比佳香さん（四六）と共に車に乗った。

森さんが一時停止の場所ので左右を確認すると、明比さんは「落ちて置いてますね。いいですよ」とにっこり。注意点もいくつかあったが、終始柔らかな口調だ。「クラッチの使い方もしっかり覚えてますね」。注意と同じ分だけ褒めることも忘れなかった。

学校を経営する加藤
光一社長(五)は褒めち
ぎる理由を「今の若者



⑤生徒の運転を褒めちぎる指導員の明比さん（写真奥）⑥「ほめちぎる教習所」の狙いを語る加藤社長
＝いずれも伊勢市小俣町元町の南部自動車学校で

免許を取る若者の動機にも変化が生じている。加藤社長は「昔は褒め合う練習を始め運動したくて来る人がた。毎朝の始業前しく運動できて向上心も持てる」。指導側の明比さんも「これまで

ほとんどだったが、今は就職のため仕方なくという人が増えた」と語る。厳しい指導で、教習を途中で投げ出す生徒もいるという。

評判は上々で、学校にいらいたが、褒める点も三月末に三百六十人の生徒に実施したアンケートでは97%が「褒めに手応えを感じていました」と答えたという。「褒めることは相手

加藤社長は褒めて伸ぶ。長年減少傾向にあった入校者数も、褒めようと考へ、昨年には入校者の取り組みを徐々にやめ、材育成や職場の士気を高め、月から今年八月まで「褒め」を推奨する団体で、前年度同期比百三十二を達成した。日本ほめる達人協十八人の増加に転じ、会（大阪市）が主催した。

する、人を褒める技術 褒めちぎる教習を受けて、良好な人間関係を作る。人を褒める技術を学ぶ「ほめ達検定」 けた森さんは「くすぐ つくる上で武器になる」からだ。

見聞
いせしま

見聞いせしま